

地域ぐるみでたくましい西浦の子を育てます

敦賀市立西浦小中学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3 回
中学校区を単位とした協議会	3 回
地域及び家庭への学校公開	11回 (のべ) 11 日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	25 人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	13 人
登下校支援ボランティア	9 人
その他 ()	人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

具体的活動内容

スクールプランの重点項目に「ふるさとを愛し、人と人、人と自然のつながりを大切にす
る子の育成」を掲げて全校でふるさと教育に取り組んでいる。研究テーマ「確かな言葉で伝
え合い深め合う浦っ子の育成」の具現化に向け、ふるさと教育をとおしてふるさとの良さを
見つけ、学んだことを発信することでコミュニケーション能力の向上を図り、郷土に誇りと
希望、愛着を持ち生命や自然を大切にし環境を守る心を育てることをねらいとしている。

(1) いかだレース

ふるさとの自然を活かした学校行事として、「いかだレース」がある。これは、中学生が手作
りのいかだで学校前の浜から 800m 先の水島を
目指すレースである。中学生は全校で 8 名である
が、船の上から小学生はもとより保護者・地域
の方々の応援も加わって地区の一大イベントとな
っている。この行事に向けて中学生は「水島清掃」
に地区の人と一緒に参加したり、レース後は全校
で清掃活動をしたりして地域の宝「水島」を守る
活動を続けている。また、NIE の実践校に指定
されていることもあり、この行事を新聞にまとめ
るため新聞社の方の講義をうけて完成させ、文化
祭で小学生や保護者・地域の方に見ていただい
た。



＜小学生・保護者・地域の方の応援を
受けて、水島を目指す中学生チーム＞

(2) 小学校の取組

この他に小学校では、校歌に歌われている西方が岳登山を実施したり、地区の民話を取り
入れて文化祭で発表したりして、体験と発信を関連づけた取組を行った。また、高学年は原
子力や火力、水力の発電所を見学し自分たちが使っている電気ができるまでの学習と合わせ
て環境学習も実施した。

(3) 中学校の取組

西浦ゆかりの詩人、藤原定の詩碑を見学して親戚の方から彼の人となりやふるさとへの思
いを伺った。また、本市が推進している「敦賀スタンダード」の教材に取り上げられている
敦賀ムゼウムの見学や中池見湿地の動植物の観察も実施した。

(4) 全校の取組

① 俳句学習

本校は芭蕉杖置きの地、色ヶ浜にある学校である。そこで以前から芭蕉についての学習

や俳句学習を続けている。今年も小中それぞれ季節ごとに地元の俳句の先生にご指導をお願いして俳句学習に取り組んだ。小学生は行事が終わると一句読むことを一年を通して実践、中学校では校外学習に出かけた中池見で俳句をつくり絵を添えて文化祭に出品するなど全校で俳句学習に取り組んでいる。



<季語を使って一句>

で発表の場を持ち、好評を博している。

② 海に親しむ学習

校区は4つの漁村からなっているため、魚料理や郷土料理の体験学習も行っている。全校ではアジのさばき方教室、小学校は保護者を講師にイカさし教室、中学校は郷土料理であるたこ飯作りを地区のお年寄りや保護者など専門家を招いて実習した。

③ 西浦太鼓

20数年前から続いている西浦太鼓に全校で取り組み、運動会や文化祭あるいは市の音楽会や地域の祭り

④ ふるさと検定

昨年からふるさと西浦についてあるいは敦賀について理解を深めようと、ふるさと検定を実施している。これは地域体験学習で学んだことの知識の定着を図ろうと4択の問題に挑戦している。規定の点数がとれたら表彰も行い、多くの児童生徒が合格証を手に入れている。

成果と課題

学校評価では、ふるさと教育について、教職員は地域を学習教材とした授業作りを行った。(90%) 児童生徒は地域について学んだり見学に行くのは楽しい。(88%) 教職員はふるさとの良さに気付いたり誇りを持つよう指導した。(80%) 児童生徒は地元の自然や文化を大切にしていこうと思うようになった。(90%) 保護者からは、学校はふるさと教育に熱心に取り組んでいる。(87%) というような評価結果を得た。総じて三者とも良好な評価であった。地域を学習教材とした取組では、保護者や地域の方の協力が不可欠であり、学校の取組を理解してもらっていることが、学習効果を高め子ども達の心に響く学習につながっているととらえている。

地域・学校協議会では、海に育った子ども達なので海に親しむ活動に取り組ませてほしいという意見が出ている。また、海の怖さも学ばせてほしいという意見もある。西浦地区の恒例行事となっているいかだレースについて、地域・学校協議会でも協力を仰ぎ保安船を出していただくなど多大な協力を得ている。この第19回いかだレースは、トム・ソーヤースクール企画コンテストで学校部門全国第2位の優秀賞を受賞することができた。

本校はNIEの実践校の指定を受けているが、ふるさと学習で取り組んでいることを新聞にまとめたり、講師を招いて学習していることについて新聞各社やテレビなどからよく取材を受けるようになった。突然の質問にも的確に答えられるようになった姿から、児童生徒のコミュニケーション能力が向上していると感じる。また、マスコミに取り上げられることで地域の方との会話も広がり、学校の取組を理解していただく良いきっかけとなった。

今の一番の課題は、児童生徒数の減少のために行事を今までのようにダイナミックに実施できないということである。平成24年度はいかだレース開催20年の記念の年になる。地域の方やOBの方にも呼びかけて教職員チームも加わり生徒達と一緒にレースにしたいと考えている。また、やや単発的に実施されている学習を学年の系統性や指導の一貫性を考慮して、学年毎に成果を積み上げていけるように、9年間を見通した年間計画を作成していくことにも取り組んでいきたい。